

右之所々者、上駒壹兩、中駒三步、下駒貳步也、

郡山大廻 花卷八御代官 遠野大槌 宮古野田 花輪 毛馬内

盛岡通零石澤内

右之所々上駒三步、中駒貳步、下駒壹步半、○下

〔仙臺產馬沿革誌〕馬籍調査

一所々ニ才馬、肝入馬改の砌、其所の肝入、組頭、先立、當才より帳に相附、二才の時分、又村々迄、當才の時相附候帳面引合改指置候様に被申付、役人衆罷出候はゞ、其帳面を以賣渡、當才二才附落無之様に申付、若し肝入組頭令不念、付落於有之は、其品各被承届、急度可被申付事、貞享三年九月廿七日)

一 媽馬預候者、誰方より媽馬何疋、預置候由證文、其所ニ才肝入に相渡置、紛無之様可仕候事、元祿二年十月)

一 在々廐元大肝入改被仰渡、御郡方横目不意相改之事、寛政十一年)

一 正月中、年々前年分廐本帳に増欠首尾合、諸判紙と同様、二月朔日境元馬に相改之事、文政二年)

一 廐元改の節、諸判紙并本帳、屹度引合相改可申事、

一 十才以下の媽、他領出被相留由の義并小荷駄、他領者江賣方の義共、毎に被仰渡置候趣相心得、不正等の取計不相出様、兼見聞吟味可申事、

一 御分領中、當才馬等、別紙案文の通、年々六月中、二才横目等手前にて吟味取調、御代官手前より、七月中旬迄、拙者共手前江相廻、御分領中、一紙立、各様江取揃差出、御承知之上被相渡置、生產開之義御吟味罷成候筈、文政四年申達、御分領中、御代官等、連名被仰渡候處、其節御郡方横目手前より取調差出候處、近年其年々不相仕組、無幾度と責付首尾仕候義にて、御用多且年々御買渡